<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育の心理学</td><td>教員名</td><td>野﨑　秀正</td><td rowspan="3">免許・資格との関係</td><td>小学校教諭</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業形態</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="2">担当形態</td><td rowspan="2">単独</td><td>幼稚園教諭</td><td></td></tr>
<tr><td>保育士</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目番号</td><td rowspan="2">TAI204</td><td rowspan="3">配当年次</td><td rowspan="3">２年前期</td><td rowspan="3">卒業要件</td><td>こども音楽療育士</td><td></td></tr>
<tr><td>小幼コース</td><td></td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２単位</td><td>幼保コース</td><td>○</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>施行規則に定める科目区分又は事項等</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6">告示別表第１による教科目</td></tr>
<tr><td>系列</td><td colspan="6">保育の対象の理解に関する科目</td></tr>
<tr><td>一般目標</td><td colspan="6">保育の心理学の授業では、子どもの発達に関する心理学的知見を習得し、それらを保育実践場面での援助に生かすための土台を形成することを目的とする。乳幼児期は、特に発達が著しい重要な時期である。乳幼児期の子どもの発達を学ぶことで子ども理解を深めるとともに、子どもの育ちと学びに寄り添いながら養護及び教育を一体的に行うための礎を築く。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
(2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
(3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">保育の心理学の授業では、子どもの発達を理解することの意義を学んだ上で、子どもの発達と環境の関連性や代表的な発達理論について学ぶ。その後、保育実践に関わる子どもの発達過程（社会情動的発達、身体的機能と運動機能の発達、認知の発達、言語の発達等）を理解することで子ども理解を深めるとともに、乳幼児期の学びの過程と特性について理解することを通して、保育実践に生かす土台を形成する。授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。</td></tr>
<tr><td>ディプロマ・ポリシーとの関係</td><td colspan="6">本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「６.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">特になし</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">第１回:保育の心理学の授業では何を学ぶのかについて、特に子どもの発達を理解することの意義、保育・教育実践に関連した心理学を学ぶことの意義について解説する。(目標(1))
第２回：発達とは何かについて、５つの発達の原理を中心に、代表的な発達理論について説明する（目標(1)）
第３回:子どもの身体的機能と運動機能の発達について、原始反射の特徴などを中心に説明する(目標(2))
第４回：初期経験の重要性として、母子間の愛着形成について、ボウルビィの愛着理論を中心に概説する（目標(2)）
第５回：愛着の重要性やその測定方法などボウルビィ以降の愛着理論の発展について解説する（目標(2)）
第６回：ピアジェの認知発達理論について、その基礎であるシェマの考え方についての理解と４つの発達段階のうち、特に前操作期段階の幼児の認知の特徴について説明する。(目標(3))
第７回：子どもの言語の発達（喃語、初語、語彙爆発等）の特徴とその過程について概説する（目標(2)）
第８回：子どもの自己意識の発達について、特に主体的自己と客体的自己の発達の両側面から説明する（目標(2)）</td></tr>
</table>

	第９回：子どもの社会性の発達について、自我の発達との関わりや他者の心の理解の発達の側面から説明する。（目標(2)） 第10回：子どもの社会性の発達について、特に道徳性の発達の側面から概説する。（目標(2)） 第11回:子どもの学びに関わる理論について理解することで、子どもの学びと保育を結びつける（養護及び教育の一体性）。（目標(3)） 第12回：子どもの発達過程と照らし合わせながら、子どもの遊びを通した学びの過程と特性について説明する。（目標(3)） 第13回：子どもの遊びを通した学びを支える保育における人との相互的関わりや体験の重要性について概説する。（目標(3)） 第14回：子どもの個人差や発達過程に応じた保育とは何かについて事例を通して説明する。（目標(3)） 第15回：子どもの学びを支える保育のおける環境の意義について解説する。（目標(3)） 期末試験
学生に対する評価	課題として提出するレポート等の内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合は課題が全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。なお、課題等の提出物へのフィードバックについては、授業中に口頭で行う。
時間外の学習について	（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。） 事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。 事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。 授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
テキスト	授業毎に資料、ワークシートを配付する。
参考書・参考資料等	参　考　書：『幼稚園教育要領・保育所保育指針』　文部科学省・厚生労働省 参考資料等：適宜提示する。
担当者からのメッセージ	授業への主体的な参加を期待します。
オフィスアワー	メール等で連絡をしてアポを取ること